

医療安全論

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 嶋森 好子 教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座		
対象学年	2	区分・時間数	講義 12時間
期間	後期		
単位数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

日本の医療において、医療安全確保が重要な課題となった歴史、医療安全確保に必要な基本的な考え方、医療現場で発生しやすい事故やその防止対策について学ぶことによって、医療安全確保の重要性を認識する。医療現場で起こりやすい事故の発生を防止するための組織的な対応、現場で行うべき基本的な安全行動の実際、安全文化の醸成の重要性を学ぶことによって、臨地実習や卒業後の実践場面において、安全が確保された行動を実施できるようになる。また、事故発生時に現場で行うべきこと、事故が発生した組織や個人が負うべき法的責任や被害者および事故当事者への支援のあり方について学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

医療事故の契機となった事故とその発生要因、国や各医療機関で行われている患者安全を推進するための事故防止活動などを学ぶことによって、医療の安全確保のために必要なリスクマネジメントについての理解が深まる。具体的な事故事例の発生要因分析や事故防止対策の検討などグループで作業することを通して、組織的に事故を防止し安全文化を醸成するためのチーム活動を行う上で必要な基本的な態度を身につけ、患者の安全確保のために必要な基本的な態度と看護職として期待されている責務を理解し、行動できるようになる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマポリシー：1,2,6,7

・到達目標（SBO）

1. 医療安全推進の契機となった事故やその後の国及び医療機関の取り組みについて説明できる。
2. 医療におけるリスクについて説明できる。
3. 有害事象（転倒・転落などの事故、褥瘡、与薬エラー等）の発生状況や国際的な医療安全の取り組みについて説明できる。
4. 医療における安全文化の醸成に向けて、チームとして取り組むことの意義を説明できる。
5. 組織の安全対策について、医療機関の取り組みと看護師の活動・役割について説明できる。
6. 医薬品・医療機器の安全な管理体制や安全な医療環境を形成する意義について説明できる。
7. 職務感染や院内感染を防止する上で組織的に取り組む意義について説明できる。
8. 事故発生時の対応と事故当事者への支援及び医療安全確保における看護職の責務について説明できる。

きる。

9. 医療事故発生予防、事故発生時の対応、及び事故の分析・改善策の実施までのリスクマネジメントサイクルとインシデント（ヒヤリ・ハット）レポートの重要性が説明できる。

・ 授業日程

(矢) 東 2-B 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
9/20	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	日本の医療における医療安全対策推進の経緯 ・ 医療安全推進の契機となった事故やその後の国及び医療機関等の安全確保の取り組みについて説明できる
9/27	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	日本医療機能評価機構事故防止センターの役割と国際的な医療安全の取組み ・ 有害事象（転倒・転落、褥瘡、誤認等）の発生状況と、国際的な医療安全の取組みについて説明できる
10/18	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	ヒューマンエラーと安全な組織文化 ・ 医療における安全文化の醸成のためにチームで取り組むことの意義を説明できる
10/25	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	患者安全確保の具体的方策 1. ・ 医薬品・医療機器の適切な管理と人や物の誤認が生じにくい安全管理体制を形成する意義について説明できる
11/1	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	患者安全確保の具体対方策 2. ・ 転倒・転落事故等療養上の世話における事故防止のために安全な医療環境を形成する意義について説明できる
11/8	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	労働安全衛生と勤務環境の改善 ・ 職務感染や院内感染を防止する上で、組織的に取り組む意義について説明できる

11/15	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	医療事故発生時の対応と看護職としての責務 ・ 事故発生時の対応と事故当事者への支援及び医療安全確保における看護職の責務について説明できる
11/22	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	リスクマネジメントとヒヤリ・ハットレポート ・ 医療事故の発生予防から事故発生時の対応及び事故の分析・結果に基づく改善までのリスクマネジメントサイクルとインシデント（ヒヤリ・ハット）レポートの必要性が説明できる

・ 教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	医療安全とリスクマネジメント	嶋森好子、任和子	ヌーヴェル ヒロカワ	2008

・ 成績評価方法

定期試験 80 点・グループワークの取組状況 20 点の合計 100 点にて評価する。

・ 特記事項・その他

【事前学修内容及び事前学修時間】

毎回の授業に対して最低 30 分以上の予習・復習を行い、知識の定着と理解の促進を図ること。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

授業内で小テストやレポート等を課した場合は、評価後適宜コメントを付し返却する。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表 3）：統合分野 看護の統合と実践

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター（VPL-FWZ60）	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ（P-100）	1	講義用資料投影
講義	模造紙・付箋紙・サインペン・定規等一式	15	グループワークで使用（6-7 人×15 セット）